

# 1.16旗びらきに1300名結集

## 動労千葉・三里塚農民 闘う決意を不す

全組合員の皆さん、家族の皆さん！

動労千葉団結旗開きは、一月十六日千葉県労働者福祉センター大ホールに一三〇〇名を結集し、大盛況、大成功裡のうちにかちとられた。ここに理不尽極まる千葉地本排除組織破壊策動、労農同盟の破壊を意図する動労内一部反動分子・革マルに対し、千葉地本一四〇〇組合員、家族の怒りの総決起と、それを包む重層的・支援連帯の一大陣型が築かれたのである。

正義は千葉地本にあり！

この日、開会一時間前には、組織内外からの参加者が長蛇の列をなして「今や遅し」と開場をまちかねていた。

十三時十分、「三里塚・ジェット百日間闘争」の映画上映のあと、会場を立錫の余地なく埋めつくした参加者の大ホールを揺り動かす拍手の中、西森副委員長の開会宣言によつて旗開きの幕は切つて落とされた。主催者を代表してあいさつに立つた関川委員長の烈々たる闘魂をこめた発言は、一言一句もらさず参加者の心に刻みこまれ、増々戦闘的気運を高めた。

つづいて「第一部」のメインテーマである「有事立法とは何か」を反戦自衛官・小西誠三等空曹より講演をうけた。氏は、一九六九年、自衛隊の治安出動訓練反対、「人民に銃をむけるな」と、自衛隊から反戦闘争に決起した輝かしい闘いの実績を踏まえ、侵略戦争への国民総動員を企図する「有事立法攻撃の反動性を自からの隊内経緯と、現に進行するアジア侵略をにらみうる自衛隊の侵略軍隊化策動を実例を挙げて暴露した。そして講演の結びに「有事立法攻撃を打ち破り、八〇年代階級闘争を切り拓く道こそ、労農同盟の発展にある」「動労千葉の闘いこそ正義だ。私も共に闘う」という熱烈的決意が表明され、満場の拍手で確認された。

地本闘争委員会を代表しての中野書記長の基調報告は、

激化する階級情勢の中にあつて、動労運動の進むべき道筋を確信をもつて明らかにし、「現下の千葉地本排除組織破壊攻撃を糾弾し総決起する時がきた」、千葉地本は敵対矛盾であり、動労運動の一体化をかちとろう等という一部反動分子・革マルの中傷・誹謗を許さず、「千葉地本の運動は、千葉地本の組合員が決める」と勝利へ向けた任務と意義を提起した。

この基調をうけ、闘う千葉地本十一支部の支部長および地本青年部長が嵐のごとき大歓声、大拍手の中登壇し、代表して佐倉・津田沼両支部、地本青年部長から各々、「団結し、怒りの火の玉と化して、千葉地本破壊攻撃を粉碎す」との力強い決意表明を行った。

動労千葉を守れ！支援共闘！！

第二部、連帯のあいさつとアトラクションは、タル酒をくみかわしながらなごやかな雰囲気のうちに進められた。館山・成田支部有志による気合のはいつた剣道、歌手・長谷川きよし氏による闘いの歌を床を踏みならし、天井をつきぬけんばかりに声高らかに合唱し、舞踊家・花柳幻舟さんの連帯のあいさつを受けた。三里塚・芝山農民の熱き連帯のあいさつは、全参加者の闘う気運をいやが応にも高めた。哲学者・山崎謙氏、前全日農委員長、石田有全氏の激励の言葉、県労連、社会党、部落解放同盟、支援共闘各団体、労組、弁護団からの連帯と決意の表明は、闘う人々の決意をうち固めるものであった。

最後に関川委員長のアコーデオン伴奏、丸幸一氏(勝浦支部)の歌唱指導によつて、会場を圧するインター・組合歌合唱・団結ガンバローをもつて幕を閉じたのである。

この団結旗開きの圧倒的成功は、千葉地本排除組織破壊策動を粉碎し、労農同盟を堅持し、三里塚・ジェット闘争を貫徹する動労千葉地本の固い決意を満天下に示すものであった。